

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### ＜大学＞

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	統括部局：大学図書館	担当部局：大学図書館
大項目	9 教育研究等環境 (研究科) 《全学的な視点》	
中項目		
小項目	9.0.3 図書館、学術情報サービスは十分に機能しているか。	
要素	図書、学術雑誌、電子情報等の整備状況とその適切性 図書館の規模、司書の資格等の専門能力を有する職員の配置、開館時間・閲覧室・情報検索設備などの利用環境 国内外の教育研究機関との学術情報相互提供システムの整備	

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 新設学部設置に関連して必要な学術情報を収集・整理・保存し、利用者に提供する。	→ 図書館登録蔵書数、年間増加冊数、特定分野の蔵書の増加数、電子ジャーナル数、データベース数	A	A	A	A	A
2. 学生数の増加に伴う利用環境の整備および利用者支援システムの整備をおこなう。	→ 閲覧座席数(対学生数比率)、オリエンテーション等利用者教育の種類と件数、図書館入館者数、貸出件数(学生一人当たりの冊数)、開館総日数・時間数、4年に1度調査する利用者実態調査に見る図書館満足度・提供サービスの認知度、OPACアクセス件数、ホームページアクセス件数、PC設置数、キャンパス間相互利用件数	B	B	B	B	B
3. 資料提供サービスや図書資料の目録所在情報整備業務に必要な高度な専門知識や技術を持った職員を育成する。	→ 図書館職員数(資格を含めて)、外部研修会・講習会参加件数、研修会・講習会実施(開催)件数	B	B	B	B	B
4. 機関リポジトリの登録件数1万件を目指す。また、デジタルコンテンツを毎年1コレクションずつ増やす。	→ 機関リポジトリの登録件数・閲覧件数、デジタルライブラリ公開件数、デジタルライブラリアkses件数	B	B	B	B	B
5. 一般公開利用者への提供サービスを見直し、地域の公共図書館との連携を強化して申込者数の増加を目指す。	→ 一般公開利用者登録数、展示企画回数、講演会回数	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 人間福祉学部、教育学部、国際学部の新設および理工学部、総合政策学部の学科増設に伴い、必要な図書資料やデータベース等の電子情報資料を大学図書館が収集・整備した。2013年度末時点で、蔵書数は2,139,863冊(2009年度比較で272,427冊増)、提供可能なオンラインデータベース数は97種類(2009年度比較で12種類増)、電子ジャーナル購読種類数は41,441タイトルになった。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 新設学部・学科のカリキュラムに合致した図書資料を利用者に提供することができた。また、オンラインで利用できる電子情報資料も充実し、目標設定した時期と比較すると、データベースや電子ジャーナルを要望する利用者に対応した提供サービスが可能となり、教育・研究活動に資することができた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 学部・学科増設については、今後、理工学部には3つの新学科が設置され、2015年度から開設されることに伴い、年次計画を策定し、新たな図書資料、電子情報資料の収集・整備を行う必要がある。</p> <p>その他 大学院生用の図書資料費を大学図書館の図書館図書資料費Aから各研究科(独立研究科・専門職大学院を含む)に配分している。新設の研究科に対する図書館図書資料費の増額要望が予算認可されず、大学院生の研究活動への影響を懸念している。</p>	☆
目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 上ヶ原キャンパス大学図書館で収容定員増加に対応するため、閲覧座席82席を増設した。また、書架の狭隘化対策として新たに完成したH号館に自動化書庫を設置した。資料面では、「先生のおすすめの本」「新聞書評掲載図書」等を新設し、新潮文庫等を追加した。利用教育面では、1年生対象の図書館オリエンテーションを見直し、より多くの1年生が受講できるように各学部働きかけた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 座席増設により収容定員に対する座席数の割合を10%以上に保った。また、学外に預け入れていた約16万冊の図書を自動化書庫に入庫し、迅速に利用要求に応えることが可能になった。新しく設置したコーナーや新書の充実、ラウンジコーナーの改装等により、貸出冊数もこの5年で約8万冊増えた。さらに、図書館オリエンテーションの見直しにより、1年生にデータベースを検索させ、資料を探す方法を体験させるようにするとともに、各学部への働きかけの結果、基礎演習開講クラスの92%のクラスが受講することになった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 近年のアクティブ・ラーニングの流れに対応して図書館外に新設されたラーニングコモンズとの連携を図るとともに、これらの施設に利用者が流れても、図書館自体の資料利用が落ち込まないように図書館の建物施設ならびに、提供するサービスの充実を図る必要がある。また、利用者教育をさらに効果あるものにするため、講習内容の見直しや、授業のなかで講習内容を実践できる課題を与えてもらうなど、基礎演習担当者との連携を深めていく必要がある。</p> <p>その他 大学院生に対する図書館サービスには、全学的に利用される研究用図書資料、学術雑誌、電子情報資料の提供以外に、①図書館所蔵図書・資料を用いた研究を行うための研究個室の提供、②学外文献複写依頼や学外図書貸借依頼をオンラインで行えるサービスの提供、③一般学生よりも貸出冊数・日数(20冊、60日)が多いこと等があげられる。</p>	☆
目標3	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 図書館サービスの質を決定するとも言える図書館職員の外部の研修会や講習会への派遣については、電子情報サービスや利用提供サービスの向上、ディスカバリー・サービスの導入、ラーニングコモンズをはじめとする学修支援サービス等の内容が中心であり、毎年、一定人数の派遣を行っている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 外部の研修会や講習会で得た電子情報サービスの知識や情報をもとに、図書館内に専従の担当者を置くことができた。電子情報資料の契約購読件数は2009年度と比較しても飛躍的に充実し、教員・学生に十分なオンライン資料を提供することができた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 利用者の検索効率を向上させるディスカバリーサービスの導入が喫緊の課題である。学内教員の十分な理解を得て、情報環境を管理する学内部署等と調整しながら、予算化をはかる必要がある。また、ラーニングコモンズ等の学修支援サービス計画を策定し、学内委員会との連携協力を行っている。さらに言えば、グローバル化を念頭に海外図書館への図書館職員派遣について、私立大学図書館協会国際図書館協力委員会等の海外研修に応募することによって、海外へ派遣された経験を持つ図書館職員を養成する。</p> <p>その他 2012年度まで10年間にわたり、国立情報学研究所の目録システム地域講習会(図書コース)を本学で開催し、近畿地区、中国・四国地区の他大学職員等の養成にあたった。</p>	☆



目標4	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか  関西学院大学リポジトリ管理委員会事務局のうち図書館選出メンバーが、リポジトリシステムの周知をはかりコンテンツ登録につながるよう、毎年の教員オリエンテーションや随時の説明会での説明、パンフレット作成(2012年度)を行った。また、各種広報や研究業績データベースの情報により、教員の研究成果発表の情報を把握し、個別に登録の働きかけを行った。学内で新規に刊行される紀要について、その存在を把握する都度、一括登録の働きかけを行った。また、デジタルライブラリについては、研究者の利用を意識し、毎年1種類ずつ貴重な所蔵資料を撮影し、翻刻および解説を付け、図書館ホームページから公開している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か  教員にはリポジトリの認知が広がっており、自発的に登録物が持ち込まれる例もでてきているが、さらに広報を継続する。登録件数は徐々に増加し、目標数値には到達しなかったが、近い数字になっている。目標数値ではないがダウンロード回数については、2012年度に実施したシステム改修の結果、それ以前と比べて激増した。一方、大学院生にはあまり周知されておらず、結果として大学院生の成果物の登録が少ない現状である。大学院生向けの説明会や印刷物配布を行うよう検討する。また、デジタルライブラリについては、時間と場所を問わない利用提供ができるため、国際的な学術資料の利用が可能になった。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か  大学院生向けの広報を行うとともに、現在、紀要掲載物をはじめとする論文形式の登録物が大半をしめている登録物について、研究データや調査報告書、動画形式のものも登録も働きかけようとする。また、システム上で研究業績データベースとの連携機能を実装し、学術雑誌・学会誌掲載論文等の把握・登録働きかけにより注力する。また、デジタルライブラリについては、これまで構築してきたDBをIOS対応にする等して、スマートフォンやタブレットに対応したものに改造する必要がある。</p> <p>その他  研究成果物のWEB上での視認性を高めるため、著者IDの付与を行った(2012年度)が、これにより著者名による名寄せが可能となり、使い勝手が向上したとの評価を得ている。今後、次期システム改修期(2016年度)にNIIのJAIROクラウドへの移行を行い、DOIの付与を実現したい。</p>	☆
目標5	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか  大学図書館の地域連携施策として、西宮市立図書館、三田市立図書館との協定による相互利用の構築の他に、近隣住民を対象とした一般公開利用制度(有料)があり、毎年定員に近い200名前後の登録者がある。また、近隣住民も参加できる年4回の展示会を開催するとともに、毎年秋には本学所蔵の貴重な資料をもとに学術資料講演会を開催している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か  図書館の一般公開利用制度は、毎年200名前後の登録者があり、平均すると1日20人の登録者が利用している。図書館資料のほとんどを利用できることや夜10時まで開館していることが魅力であると思われる。また、毎年秋に開催する学術資料講演会は毎回70名～100名の地域住民の参加があり、大学と地域の交流の場として認知され、大変好評である。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か  西宮市、三田市の図書館との協定による図書館利用はあまり活発でないため、相互に利用条件の再確認や各市民への周知方法を工夫するように働きかける必要がある。また、一般公開利用制度については、利用者からの要望を聞くことにより、可能な範囲でのサービス拡大をはかりたい。</p> <p>その他  学術資料講演会や各種の展示については継続して実施することが重要であり、できれば図書館の認知度向上や利用度向上につながるよう工夫していく必要がある。また、従来の図書館広報を見直し、利用者に対し積極的に情報を伝えていくために、現在、図書館における広報機能を再検討する館内組織を立ち上げて活動を進めている。</p>	☆
備考		<p>上記目標2の補足事項: 2012年度に学部生および大学院生に対して図書館利用実態調査を実施した結果、2008年度実施と比較して指標1「図書館に対する満足度」、指標3「相互利用制度の認知度」、指標4「オンラインデータベースの利用度」が向上した。(詳細は評価指標データを参照のこと。)</p>	☆

## 《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数値的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

	単位	2004	2008	2012
指標1 図書館に対する満足度調査	%	79.7% (満足+やや満足)÷回答者	【所蔵資料】学部生:83.8 大学院生:74.6 【施設・設備】学部生:84.5 大学院生:86.9 【各種サービス】学部生:93.9 大学院生:87.7 【開館日・開館時間】学部生:80.7 大学院生:65.6	【所蔵資料】学部生:90.4 大学院生:85.1 【電子資料】学部生:91.0 大学院生:82.2 【施設・設備】学部生:85.9 大学院生:88.9 【オンラインサービス】学部生:95.8 大学院生:94.8 【開館日・開館時間】学部生:78.6 大学院生:70.6
指標2 図書館主催の講習会の認知度	%	学部生61.6、大学院生81.2	【キャンパスライフABC!】学部生:80.2 【大学院生新生オリエンテーション】大学院生:83.3 【基礎演習対象新生オリエンテーション】学部生:92.1 【演習・クラス対象文献の探し方講習会等】学部生:86.5 【個人で申し込む講習会】学部生:73.7 大学院生:74.6	【キャンパスライフABC!】学部生:78.6 【基礎演習対象館内ツアーあるいは講習会】学部生:92.5 【研究演習対象講習会等】学部生:75.5
指標3 相互利用制度の認知度	%	【文献複写】: 学部生49.1、大学院生89.3 【図書貸借】: 学部生50.2、大学院生87.5 【直接利用】: 学部生45.9、大学院生85.0	【文献複写】学部生:31.7 大学院生:79.1 【図書貸借】学部生:35.3 大学院生:70.9 【直接利用】学部生:24.1 大学院生:58.6	【文献複写】学部生:40.3 大学院生:79.3 【図書貸借】学部生:57.0 大学院生:79.0 【直接利用】学部生:48.8 大学院生:76.5
指標4 HPから提供しているオンラインデータベースの利用度	%	学部生33.3、大学院生73.7	学部生:30.8 大学院生:62.0	学部生:56.5 大学院生:71.0
指標5 職員の対応に対する満足度調査	%	(満足+やや満足)÷回答者 【貸出返却】学部生77.9、大学院84.3 【レファレンス】学部生79.8、大学院生91.3	【貸出返却】学部生:95.5 大学院生:96.4 【レファレンス】学部生:94.4 大学院生:95.2	【貸出返却】学部生:89.5 大学院生:88.5 【レファレンス】学部生:92.7 大学院生:92.8

		単位	2009	2010	2011	2012	2013	2014	備考	
指標6	図書館登録されている蔵書数	冊	1,867,436	1,911,017	1,945,827	1,982,494	2,139,863		図書、定期刊行物	
指標7	年間増加冊数	冊	71,658	51,745	48,747	48,340	166,175		図書の受け入れ状況、2013年度は産研移管分	
指標8	収容定員における座席数の割合	西宮上ヶ原	%	10.6	10.5	10.6	10.3	10.2	10.2	座席数÷収容定員
		神戸三田	%	12.7	12.1	11.6	11.1	11.2	11.2	座席数÷収容定員
		西宮聖和	%	46.9	30.9	22.9	18.2	18.3	18.3	座席数÷収容定員
指標9	学生一人あたりの貸し出し冊数	冊	8.7	10.4	12.8	11.3	12.2		(上ヶ原&三田総貸出数)÷(学部生&院生数)	
指標10	図書館入館者数	西宮上ヶ原	人	773,454	815,976	826,136	830,722	846,982		
		神戸三田	人	290,296	295,426	295,699	320,466	262,253		
指標11	HP閲覧件数	件	324,750	319,606	315,777	313,283	295,916		2008年度まで上ヶ原のみのデータ 2009年度以降上ヶ原+三田	
指標12	オンラインデータベース数	種	85	88	82	94	97			
指標13	オリエンテーション等利用者教育の件数	西宮上ヶ原	件	327	394	323	323	301		
		神戸三田	件	47	55	73	83	112		
指標14	OPACアクセス件数	件	2,291,045	2,061,883	1,913,521	1,857,836	1,598,590			
指標15	PC設置件数	台	142	142	142	142	142			
指標16	キャンパス間相互利用件数	図書取り寄せ	件	2,459	5,520	9,727	9,989	10,440		
		文献複写	件	309	314	409	306	245		
指標17	外部研修会・講習会参加件数	件	43	42	51	52	54			
指標18	館内研修会・講習会実施件数	件	3	3	3	3	3			
指標19	機関リポジトリ登録件数・閲覧件数	登録件数	件	2,117	4,642	6,420	7,857	8,978		
		閲覧件数	件	146,207	387,755	375,335	928,158	1,040,828		
指標20	デジタルライブラリ公開件数	件	7	8	9	10	11			
指標21	デジタルライブラリアクセス件数	西宮上ヶ原	件	2,541	2,324	2,038	2,211	6,191		2013年度以降 上ヶ原+神戸三田
		神戸三田	件	616	627	594	624			
指標22	一般公開利用登録者数	人	276	265	211	260	246			
指標23	展示企画回数	件	5	5	5	5	6			
指標24	講演会数	件	2	2	2	2	2			